

話し合い活動をいかした道徳の時間

— 中学校における道徳の時間を活性化するために —

所属校：多摩市立多摩中学校
氏名：三浦 摩利
派遣先：東京学芸大学大学院

キーワード：道徳の時間・話し合い活動・道徳教育郷土資料・道徳の時間のガイダンス

I 研究の目的

平成 21 年度から新学習指導要領における道徳教育の完全実施が始まった。今回の学習指導要領の改訂ポイントとして、「豊かな心や健やかな身体の育成の充実」が基本的な考えの一つとされている。具体的には国語をはじめとする各教科領域における言語活動を充実させることが求められている。このことから、特に「話し合いをいかした道徳の時間」をテーマとして研究を行うことは意義深いことと考えられる。

「話し合いをいかした道徳の時間」を研究テーマとしたのは、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるようにするためである。

本論文の目的は、中学校における道徳の時間を活性化させることである。そのために話し合い活動をいかした道徳の時間を研究する。新学習指導要領の改正ポイントである「言語活動の充実」という観点から考えると、書く活動は中学校では活発に行われている現状があるので、小学校で活発に行われているような話し合い活動も合わせて行うことによって、自らの道徳的な成長を実感できるような道徳の時間を提案したいと考える。

この目的のために、本論文では大きく 2 つの提案をする。1 つ目は「道徳の時間のガイダンス」を中心とした道徳の時間を活性化させた取組の提案であり、2 つ目は話し合い活動をいかした道徳の時間のモデルを示すことである。

中学校に入学して初めての授業で「道徳の授業のガイダンス」を実施することにより、「生徒に意見を求めても、発言しない。」という悩みを抱えている教師に少しでも解決の糸口を与えることを目的とする。

また、話し合い活動をいかした道徳の時間のモデルを提案するのは、「ワークシートに書かせるだけの授業はできるが、どのように生徒に意見交換させたらいいのか、話し合いをさせたらいいのかわからない。」という悩みを抱えている教師にヒントを与えることを目的とする。

II 研究の方法と構造

1 道徳の時間を活性化させる実践事例からの考察

(1) 道徳の時間のガイダンス実践事例

- ① 対象：都内公立中学校 1 学年 4 学級、計 156 名の生徒
- ② 時期：2010 年 4 月、入学後最初の道徳の時間
- ③ 手続き：
 - ア 担任が道徳の時間のガイダンスのワークシートを配布し、道徳の時間のねらいについて説明する。
 - イ 道徳の時間の授業規律、マナーを説明する。
 - ウ 道徳的葛藤を含む社会的対人場面を想定して、どのように考えたか、そう考えた根拠・理由も含めて自分の考えを発表させる練習を全員に行う。

(2) 班ノートの取組実践事例

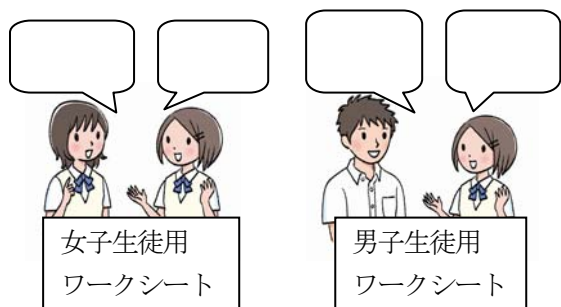
- ① 対象：都内公立中学校 1 学年 1 学級、計 39 名の生徒
- ② 時期：2010 年 4 月～12 月
- ③ 手続き：班長を先頭に順番に班員が日記を書き、翌朝担任に提出する。担任がひと言コメントを書き、帰りの学活で返却する。

2 研究授業からの考察

(1) 研究授業 1 「花火大会」

～自作の道徳教育郷土資料を活用し、道徳の授業を活性化させる～

- ① 対象：都内公立中学校 1 学年 1 学級、計 39 名の生徒
- ② 時期：2010 年 7 月 14 日（水）5 校時
- ③ 目的：中学校での道徳の時間を活性化させるための工夫についてさまざまな取組を行う。
 - ア 自作の道徳教育郷土資料「花火大会（多摩市）」東京都道徳教育郷土資料集（第 3 集）を用いる。
 - イ ゲストティーチャー的な役割として、地域の方へのインタビュー映像を展開の中で用いる。
 - ウ 話し合い活動を授業の中に取り入れる。
 - エ ワークシートの工夫
 - 1) イラストを工夫して、男子生徒用、女子生徒用ワークシートを用意し、生徒が楽しく取り組めるようにする。
 - 2) 自分が主人公の立場になって、主人公なら自分自身にどんな話をするだろうかとセリフを考えて入れるロールレタリング的手法を用いる。



※左に自分のセリフを考えて入れる。右に資料中の主人公直子さんのセリフを考えて入れる。

(2) 研究授業2「うるわしき伝統」

～話し合い活動をいかした道徳の時間～

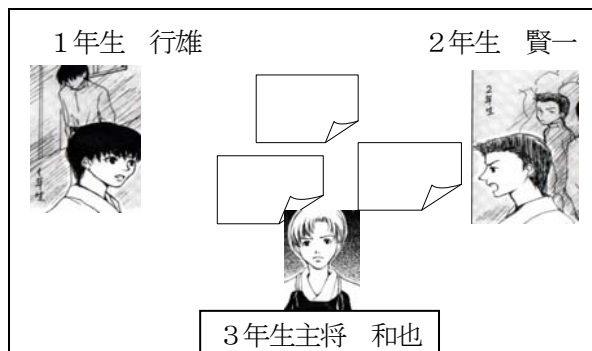
- ① 対象：都内公立中学校1学年1学級、計39名の生徒
- ② 時期：2010年10月30日（土）5校時
- ③ 目的：小グループでの話し合い活動を取り入れ、生徒一人一人が自分の意見を発表できるような道徳の時間を実施する。

ア 活発な話し合い活動ができるよう、モラルジレンマ資料を用いる。

イ 小グループでの話し合いを効果的に進めるために、<班用ワークシート><意見を記入する付箋紙>を用意する。付箋紙に自分の意見を書いて、貼りながら発表させる活動を取り入れる。立場によって貼る位置を変え、話し合いの様子が目に見える形で進められるようにする。

ウ 板書の工夫。

エ 終末では、各部活動の部長、キャプテンに対象に行ったアンケートの回答を生徒に示す。



班用ワークシート(付箋紙を貼りながらの意見交換)

Ⅲ 全実践を通しての成果

1 道徳性段階変容の比較、アンケートの比較

先行研究¹で使われた道徳性変容の比較²を実施した。1・2学期に「話し合い活動をいかした道徳の時間」を実践してきたクラスと、他のクラスの生徒の道徳性の発達段階を検査し、比較した。また、道徳アン

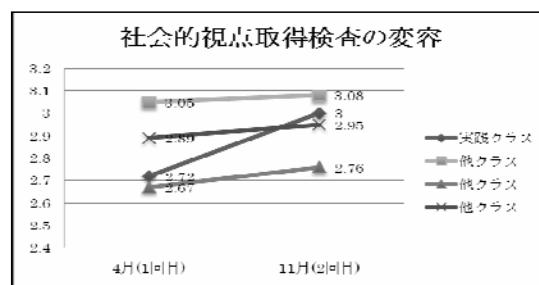
¹ 杉中康平『「話し合い」活動による道徳授業の再構築に関する実践的研究』兵庫教育大学大学院修士論文、2003

² 荒木紀幸『道徳性の測定と評価を生かした新道徳授業』明治図書、1993

ケートの結果から小学校との比較や、実践クラスと他クラスとの比較・考察を行った。

(1) 社会的視点取得能力検査「アルメニア課題」

- ① 対象：都内公立中学校1学年4学級、計156名の生徒
- ② 時期：2010年4月20日（火）…1回目
2010年11月9日（火）…2回目
- ③ 手続き：担任が課題を朗読した後、4つの課題に回答するよう指示する。生徒の記述から、0段階から4段階評定を判定する。
- ④ 結果：全クラス、各生徒の段階の平均点の比較を行ったところ、全クラス上昇が見られた。「話し合い活動をいかした道徳の時間」を実践してきたクラスは、段階の上昇が著しかった。



(2) 道徳アンケートの実施

- ① 対象：都内公立中学校1学年4学級、計156名の生徒
- ② 時期：2010年12月14日（火）（1回目）
2010年12月21日（火）（2回目）
- ③ 結果：小学校の時と比べて、道徳の時間が好きという生徒の割合が増加した。

小学校の時「とても好き」+「まあまあ」… 38%
中学校に入って「とても」+「まあまあ」… 49%
実践クラス 「とても」+「まあまあ」… 82%

2 成果と課題

平成16・17年文部科学省「義務教育に関する意識調査」によると、「道徳の時間がどれくらい好きか」という質問に対して、小学校から中学校にかけて「とても」+「まあ好き」の割合は下降し続けている。小4(58.4%)、小5(49.3%)、小6(42.8%)、中1(40.3%)、中2(39.2%)、中3(37.2%)という現実に対して、本研究では、中学生になって道徳の時間がむしろ「好き」になったという生徒が増えた。このことが一番の成果であり、話し合い活動をいかした道徳の時間を実践したことや、道徳の時間を活性化する試みという研究の方向性が間違っていなかったといえる。2年、3年と進級していく生徒が同じ気持ちをもつことができるような授業実践を提案していくのが今後の課題である。